

建設技能労働者の労務単価の上昇

(2023年7月版)

2023年3月から適用になっている公共工事設計労務単価は、2021年1月当時(2020年3月から適用の単価)と比べ、全国全職種単純平均で9.1%上昇しています。

注) 公共工事設計労務単価は公共工事の積算に用いる労務費の単価であり、「公共工事・民間工事を問わず・・・発注者、元請業者、下請業者のそれぞれの関係者が、新労務単価の水準を踏まえた適正な請負代金による契約を行い、技能労働者の賃金水準の更なる改善を図ることが必要」とされています。(国土交通省不動産・建設経済局長通知(2023.2.14))

鉄筋工



5.1%up

溶接工



7.3%up

型わく工



5.8%up

鉄骨工



3.1%up

防水工



9.7%up

左官



6.5%up

塗装工



10.6%up

内装工



7.6%up

電工



12.9%up

ダクト工



16.1%up

保温工



10.6%up

配管工



12.2%up

運転手(特殊)



14.5%up

普通作業員



11.2%up

とび工



9.5%up

交通誘導警備員
A



15.5%up